2022年度活動概要　　多文化共生と英語教育研究会

多文化共生と英語教育研究会では2022年度も前年度に引き続き「英語による多様性の包摂」というテーマの下、主にzoom会議の形式で定期的に研究会を開催し活動を実施しました。2022年度は大学生の多文化共生意識に関して行った2021年度の量的調査研究（「Diversity ＆Inclusionをめぐる大学英語教育の課題と実践」JACET中部支部紀要第19号（pp77－100））に質的調査を加えることにより、量的調査だけでは捉えきれなかった大学生の多文化共生意識における内面的な葛藤などを掘り下げ、量的調査と総合することを通して分析の精緻化をめざしました。

年度の前半では、質的研究の方法論の分析と共有を中心とした活動を行い、研究会メンバーそれぞれが大学生や大学院生を対象とするインタビュー計画の策定に取り組みました。年度の後半では半構造的な調査法によるインタビューの実施、録音と文字化を経て、主にKJ法によるキーワードや重要概念の分析とマトリックス分析による個々の分析結果の総合化を試み、12月3日のJAAL in JACET学術交流会（立命館大学）にて「大学生の多文化共生意識に関する量的及び質的研究」として中間発表を行いました。

発表では、①多文化共生と英語教育に関する量的調査のまとめ、②量的分析と質的分析の関係、③「無自覚な特権」をキーワードとする、短大生の多文化共生意識の質的調査の事例④工学系大学院生の機械翻訳使用の実態調査、を取り上げました。④はSociety5.0時代の英語教育現場の潮流を把握するという本研究会のより大きな視点に即した取組であると言えます。

次年度は、「無自覚な特権（Privilege）」を鍵概念とし、多文化共生のみでなく、現代社会における多様な「分断」と「統合」の問題を考え、英語教育の課題と現代的役割について分析・提案をしていきたいと考えています。